



# 災害に備える

台風 21 号、北海道胆振東部地震と立て続けに災害が発生。北海道全域で停電が発生するなど、まちは混乱に包まれました。

今月号は、災害を振り返り、日々の防災対策について考えます。(若草町で撮影)

## 突如、襲い来る災害

9月4日18時34分、台風21号の影響による暴風警報の発表。5日未明3時16分には、最大瞬間風速33・1mを観測しました。市内全域に激しい強風が吹き荒れ、公園や学校の樹木、約2700本が倒れました。倒木で市内の道路約10箇所が通行止めになるなど、大きな傷跡が残りました。翌日6日未明3時7分。胆振東部で最大震度7の地震が発生。江別市では震度5強が観測されました。この地震の影響で、道内全域が停電。江別市内も全域で停電し、約2万3500戸で断水が発生

しました。給水所9か所、避難所6か所が開設し、最大で519名が避難しました。今回、震度5強の地震で転倒による負傷者、小規模な火災、家屋の損壊など、江別市内に大きな被害をもたらしました。今後、江別市でより大規模な地震が起きる可能性も0ではありません。震度6や7は震度5強と比較にならないほど大きな揺れになります。今回の災害をきっかけに、改めて日頃の備えをし、いざというときの行動を見直しましょう。

### 台風 21 号、胆振東部地震の被害

- 倒木 2,694 本  
(市が管理する樹木のみ)
- 停電 市内全域  
(完全復旧まで約 52 時間)
- 避難所 6 か所開設
- 最大避難者数 519 名 (9/6 23:30 時点)
- 断水 約 23,500 戸

### ご利用ください 防災情報提供サービス

市内の気象情報や避難案内など、緊急情報を電話、ファクス、Eメールで受け取れるサービス。Eメールを登録する場合は、以下のQRコードを読み込むか、申込先のメールアドレスへ空メールを送信してください。電話・ファクスを登録する方は危機対策室へ電話でご連絡ください。



**【申込】** 危機対策室 ☎ 381-1407  
Email = bousai.ebetsu-city@raidan.ktaiwork.jp  
防災情報テレフォンサービス ☎ 050-5533-8204

# 災害に備える

## 台風・地震の災害対応状況

### 9月5日(水)

- 0時17分 大雨警報（浸水害）発表
- 3時16分 最大瞬間風速 33.1 mを観測
- 3時50分 最大風速 22.1 mを観測
- 5時53分 大雨警報解除
- 8時14分 暴風警報解除

### 9月6日(木)

- 3時07分 地震発生（気象庁情報）
- 3時25分 災害対策本部設置、市内全域で停電、広範囲での断水が発生。避難所、給水所の開設準備。
- 5時35分 給水所を順次開設（最大9か所）
- 6時00分 避難所開設（6か所）
- 6時40分 給水活動のため、自衛隊が到着
- 12時37分 浄水場で発電機での浄水処理開始
- 13時35分 江別市役所本庁舎電力復旧
- 18時10分 浄化センターで発電機での汚水処理開始
- 20時00分 市役所に携帯電話充電コーナー設置
- 23時38分 市内全域水道復旧

### 9月7日(金)

- 12時00分 給水所を3か所に縮小
- 23時00分 市内の大部分で電気復旧

### 9月8日(土)

- 7時02分 市内の電気が完全復旧
- 12時00分 すべての給水所を閉鎖

### 9月9日(日)

- 12時00分 すべての避難所を閉鎖



大麻体育館の避難所には、最大で158名が避難しました。



上江別小学校の給水所。水を求める人で、各給水所には長い列ができました。

## 災害を 正しく恐れる

北翔大学で自然災害科学・防災教育などを専門とする横山光准教授に、防災のポイントを尋ねました。

### 正しい知識を身につける

自然災害は必ず起きるもの。必要以上に不安に思うのではなく、正しく恐れることが大切です。自分の住むまち

ではどのような災害が起こりうるか、そのためにどのような備えが必要なのか、正しい知識を身に付けて、その上で

災害に備えることが、正しく恐れるということなのです。

地震は事前に予知することが難しい自然現象です。家の中を見渡して、高い棚に物を置かないなど、身の周りの危険をあらかじめ取り除いておくことで、被害を少なくでき

ます。また、災害時に持ち出すものを用意し、実際に使ってみることも重要です。

常に命を守る行動を

台風や大雨は地震と違い、事前に被害を予測することができます。自然に真摯に向き合い、不要な外出は避けることが大切です。

近年、災害情報は、強い表現で報道されるようになりました。しかし自然が相手ですから、結果的に被害が少なかつたケースや警報が空振りの場合もあります。「前に何もなかつたから、今回も大丈夫」と油断せず、危険が迫っていることが知らされたときは、常に命を守る行動を取りましょう。何もなかつたときは素直に喜ぶ余裕を持つことが大切です。

正しい情報を集めて、行動することが自分や他の人の命を救うことにつながります。



北翔大学教育文化学部 教育学科  
横山 光 准教授

# 絆が災害を乗り越える力に



1. ベジスト mini で新鮮な野菜を買い求める人たち  
2. ふたりのマルシェの新鮮な野菜に、笑顔がこぼれるお客さん  
3. 壊れたビニールハウスを修理する柏村さん



## 地域の人の役に立ちたい

「ビニールハウスが壊れ、倉庫のシャッターも2枚壊れました」豊幌地区の農業生産法人アンビシャスファームの代表取締役の柏村章夫さんは、台風21号の被害を振り返ります。さらに立て続けに襲ってきた震度5強の地震で、道内全域で停電が発生。スーパーが営業ができず、収穫した野菜は出荷できずになりました。

柏村さんは日頃から、「アンビシャスファームの存在意義は『地域に必要とされること』と社員に話してしました。被災した社員たちと、今、自分たちができることはまちのみんなに野菜を届けること」と声をかけあい、震災の影響が色濃く残る9月8日に同社が運営する野菜直売



アンビシャスファーム(株) 代表取締役 柏村 章夫 さん

所「ふたりのマルシェ」を開催しました。

多くのスーパーが閉店したり、食料品が品切れになつているなか、マルシェには多くの人が訪れ、野菜はあつというまに売り切れました。お客さんから「いつものマルシェがやっついて、日常が戻ってきた感じ安心できました」と声をかけられたそうです。

## さみしいとき、困ったときは商店街へ

9月8日、大麻銀座商店街でも新鮮な野菜に多くの人が集まりました。商店街と、市内の農家の人々が手を組み、野菜直売「ベジスト mini」が開催されていきました。発起人は同商店街で花屋を経営する、荒まことさん。毎月末の土曜日に開催される古本市「ブックストリート」で、野菜販売コーナー「ベジスト」を運営しています。

7日の夜、荒さんが市内の



ベジスト代表者 荒 まこと さん

農家に「お客さんのために野菜販売をしよう」と声をかけると、話はトントン拍子に進み、その夜すぐにブックストリートを運営する仲間たちと一緒に、SNSを使ってイベント開催を周知しました。翌日の朝、荒さんが商店街に駆け付けると、すでに野菜を求める人が集まり、農家と商店街の仲間たちが野菜の販売を始めていたそうです。

「買い物に来ていた人の中で、みんなに会って泣きだした人もいました。地震や停電で寂しい思いをしていたのかも」と荒さん。「ひとりですびしいとき、お腹が空いたとき、商店街に行きつけのお店があると心強いですよ」と笑顔で話します。

商店街のお店には、決断の速さとフットワークの良さがあります。市内に農家があり、野菜をすぐに届けてくれたことも江別の強み。商店街の力が合わせて、まちに新鮮な野菜と元気を届け、災害を乗り越える力になりました。普段から商店街に足を運び、行きつけの店を見つけたことも、お互いを助けあい、災害からの不安な思いを乗り越える力になります。

# 災害に備える

## みなさんから寄せられた「ありがとう」のメッセージ

### 水のありがたみを感じました

9月5、6日の台風と地震は本当にびっくりして、自然災害って怖いと感じました。給水も10ℓ×6袋を2日間にわたって使い、水のありがたみをすごく体で覚えました。(匿名)

### 優しく対応してくれてありがとう

停電が続いていたとき、市役所にケータイを充電しに行きました。殺伐としてると思いきや、職員の方々がみんなやさしく対応してくださり、一気に気持ちがホッとしました。

いつ電気が復旧するかかわからず、家族もなんとなく元気が無くなってきた中で、久しぶりに外の世界の人々や、

防災を通じて感じたメッセージの一部を紹介します。あたたかいメッセージ、ありがとうございました。

TVで最新情報にふれられて、少し生き返ったような心もちになりました。職員のみなさん、大変でしたのに、優しく対応してくださってありがとうございました。(30歳 パート)

### 近所の方へありがとう

我が家はIHクッキングヒーターのため、約2日間、まったくお料理ができませんでした。停電は辛いです。

そのときに、近所の形がおにぎり、カレーライスなどを届けてくださり、とてもありがたかったです。冷蔵庫もだんだん温度があがってくるので、冷凍食品は近所へ持って行って食べてもらいました。ダメにするよりずっとよかったです。(40歳代 主婦)

## 冬期は車での避難や運転にも注意を!

### 立ち往生に備えて防寒着を用意しましょう

冬期に車の中に避難した場合や、大雪の影響で車が立ち往生してしまった場合は、必ず車のエンジンを切りましょう。雪で排気口がふさがり、一酸化炭素中毒で命を落とす危険があります。また、エンジンを切った車内で凍えないよう、普段から防寒具や毛布を用意しておきましょう。

### 避難所の場所、道のりを事前に確認しましょう

冬になると通れなくなる道や、落雪の恐れなどにより、通行できなくなる通路があるかもしれません。避難所までの道のりは、降雪前後にそれぞれ確認しておきましょう。

お近くの避難所は市ホームページのほか、防災安心マップでご確認ください。



### ご協力ありがとうございました! 災害時協力井戸も活躍!

災害時協力井戸は、断水などの災害が発生したとき、自宅などの井戸を生活用水として開放する登録制度です。今回の災害で発生した断水の際には、2か所の登録者が生活用水の提供のため井戸を開放しました。

井戸をお持ちの方はぜひご登録ください。  
[詳細] 危機対策室 ☎ 381-1407



### 給水袋の質問 ~メッセージの中から~

**Q.** 断水のと、給水所で給水袋をもらいました。乾かして再利用しても大丈夫ですか?

**A.** 給水袋は基本的に使い捨てですので、飲料水には使えません。使うときは生活用水に限って使ってください。なお、袋の種類によっては複数回使えるものもあるので、袋の説明をよく読んでご利用ください。

## 家族の防災メモ

今回の災害のことを振り返り、家族で話し合い、大切な情報を共有しましょう。携帯電話で写真を撮る、コピーしてお財布にいれるなど、常に身に付けておきましょう。

名前(ふりがな)

生年月日・血液型 年 月 日・型

電話番号 - -

名前(ふりがな)

生年月日・血液型 年 月 日・型

電話番号 - -

名前(ふりがな)

生年月日・血液型 年 月 日・型

電話番号 - -

名前(ふりがな)

生年月日・血液型 年 月 日・型

電話番号 - -

家族が集まる避難場所

非常時持ち出し袋、貴重品の置き場所など

職場や親戚の連絡先(家族に直接連絡できない場合)

そのほか、家族にとって大切な情報

# 協力して災害と向き合おう



1



2



3

1. 子どもたちも訓練に参加
2. 段ボールベッドの作り方を紹介する千里教授
3. 全員で避難物資をリレー形式で運搬

**避難者をお客さんにならない**

10月13日、文京台小学校で、文京台地区の自治会で構成されている自主防災組織による避難所運営訓練が行われました。自治会の役員を中心に、文京台地区に住む約160名が訓練に参加。幼稚園児から高齢者まで、さまざまな年代が参加し、大規模災害を想定した訓練を体験しました。

同防災協議会の岩本栄三本部長は「避難者はお客さんにならないで、みんなで一緒に災害を乗り越えましょう」と訓練の参加者に呼びかけました。実際に災害が発生したとき、十分な支援が届くとは限りません。自分たちの命は自分で守るといふ自助、地域の人たちで助け合う共助が災害を乗り越える力になります。

北翔大学の千里政文教授



北翔大学大学院 生涯学習学研究所  
千里 政文 教授



文京台自主防災協議会  
岩本 栄三 本部長

は、避難所の住環境を整える研究をしています。この訓練でも段ボールを使った間仕切りやベッドの作り方を紹介し、冷たい床の避難所で少しでも快適に過ごす方法を参加者に伝えました。

訓練には北翔大学の学生も参加しました。今回の地震で野幌公民館に避難した体験をきっかけに、防災に関心を持ったという学生もいました。訓練に参加した学生たちは、学部や学年もばらばら。「今回の災害で防災の大切さを強く感じた。大学で習ったことをいろんな人に伝えたいし、訓練を通して勉強したい」と話します。

## 避難者も避難所の運営に参加を

千里教授は9月の地震をこう振り返ります。「避難所が開設されたとき、市の職員が避難者に配る畳を大汗をかいで運んでしました。疲れてい



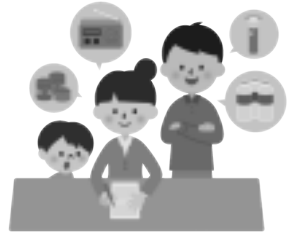
自治会の参加者と一緒に、段ボールと毛布を使ってコタツを作った学生たち



訓練に参加した北翔大学の学生たち。学部や学年を越え、災害に関心のある学生が参加しています。

く職員の様子を見ていた、避難所の学生たちが、避難所の運営を手伝い始めると、それまで座っていた他の学生や避難者たちも自主的に手伝うようになりました。避難所は、行政だけでは運営できません。避難者も一緒に避難所の運営に参加するという気持ちが大切です。」

## 話し合おう、災害のこと



災害のとき、すぐに助け合うことができるのは、一緒に住む家族、そして近所に住む人です。災害時に必要なものは家庭によって異なります。今回の災害で必要だと感じた備蓄品などについて、家族で話し合いま

しょう。また、食料や備蓄品などは近所の人と分け合ったり交換しあうことで、お互いを支え合うことができます。まずは近所の人と顔見知りになり、助け合える関係を作り、支えあって災害を乗り越えましょう。

### 一時避難のために非常用持ち出し袋の準備を

災害が発生し、一時避難をするときに最小限必要なものをまとめた非常用持ち出し袋を用意しましょう。寝室や玄関のほか、車内や物置などにしまっておき、すぐに持ち出せるようにしておくことがポイントです。

非常用持ち出し袋は、それぞれ自分にとって必要なものを準備することが重要です。家族で必要なものを確認して持ち出し袋を作りましょう。

- 飲料水 (500ml を 2～3 本程度)
- 非常食 (小型の栄養補助食品など)
- 携帯電話 (充電器、予備バッテリー)
- 防寒具、雨具  携帯ラジオ  現金
- 身分証明書、保険証  懐中電灯
- 非常用トイレ  地図、避難所マップ
- ウェットティッシュ  応急手当セット
- 使い捨てカイロ  軍手  マスク
- 替えの着下、靴下 (速乾性のよいもの)
- 家族の写真  ライター  ポリ袋
- 救急、災害用の笛  はさみ、カッター



両手が使えるリュック型が最適

そのほか、予備のメガネやコンタクトレンズ、常備薬やおむつなど、必要なものを用意。

### 家庭で最低でも 3 日分の備蓄をしましょう

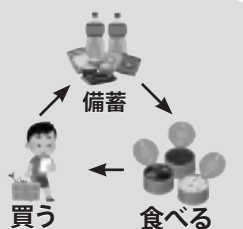
大規模な災害の発生後、人命救助のリミットとされる 3 日間 (72 時間) は生存者の救助が優先されます。支援物資の配給が本格化するのは 4 日目以降となり、3 日間は自分自身で水や食料を確保しなければなりません。

最低でも 1 人当たり 3 日以上、可能であれば 7 日分の備蓄をしましょう。また、食品アレルギーを持つ方はアレルギー対応食を自宅に備蓄しておきましょう。

飲料水の備蓄のほかに、トイレを流す生活用水を確保するために、お風呂の水を残しておくことも大切です。

#### 古いものから食べて補充する「ローリング・ストック法」

日常的な食料 (普段から食べているもの) を備蓄しておき、新しいものを買ったら、古いものから順に消費し、消費期限内に入れ替える方法です。



#### 備蓄の例(3 日分)

飲料水 9ℓ × 人数分

**最重要**

生命を維持するために大人 1 人当たり 1 日 3 ℓ の飲料水が必要。

非常食 9 食 × 人数分

火を使わず、そのまま食べられる乾パンやレトルトご飯のほか、高カロリーなチョコや缶詰も一緒に備蓄しましょう。

カセットコンロ・ガスボンベ

レトルトを温める、炊飯など、停電時の料理全般に使えます。

ティッシュペーパー・ウェットティッシュ

手や体を拭き、清潔に保つために使います。

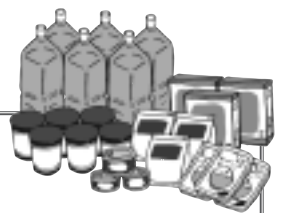
携帯ラジオ・乾電池、携帯電話・モバイルバッテリー

停電時に情報を集めます。予備の電池なども用意しましょう。

ポータブル暖房器具・使い捨てカイロ・防寒着

停電などで暖房が使えないとき、暖をとるのに使います。

そのほか、常備薬、生理用品、おむつ、コンタクトレンズなど、各家庭で必要なものをまとめて備蓄しておきましょう。



特集への感想をお寄せください

役立った防災グッズ情報なども募集します

フォームメール QRコードを読み取っていただくか、江別市ホームページのフォームメールからお送りください。

郵送・ファクス 〒067-8674 高砂町 6 FAX 381-1149 へ

※メッセージは、個人名や企業名が分からないようにして広報誌やホームページなどでご紹介させていただく場合があります。個別に回答はしていません。

